

## ～CT とエコーが新しくなりました～

### CT（コンピュータ断層診断装置）



すでに9月20日から稼働していますが、既存の機器に比べてより高画質であり、正確なデータ収集が可能です。CTは、レントゲンでは判断が難しかった微細な骨折などを発見・治療することが可能になります。

### エコー（超音波診断装置）



エコーは、診察室で検査することができ、レントゲンには写らない靭帯・腱・筋膜・脂肪組織などや血液の流れも見ることができ、炎症の程度も把握できます。

また、肩こり等の痛みに対し「エコーガイド下筋膜リリース」を施行しています。筋膜が硬くなり痛みの発生源となる“トリガーポイント”をエコーにより把握し注射することで、痛みが軽減し動きやすくなります。